アンティークとヴィンテージ

青い鳥こどもクリニック　引田満

興味のない方には響かないテーマですみません。私はといえばアンティークショップを覗くのが大好きなもので…。東京目黒通り沿いなどは１日過ごしても飽きません。地方の観光地の商店街を歩いていても（車はダメです）、みやげ物屋の隣になぜかアンティークを扱う店が１～２軒見つかるものです。ちょっと入りづらい雰囲気を漂わせているのは共通ですが、思い切って勇気を出して入ってみます。100 年前に製造された（シリアルナンバーで年代が分かります）IWC の懐中時計などが結構見つかったりします。動いていないものも多いですが、技術のある時計店できちんと修理すれば見事に復活し、驚くほど精度が出るのに驚嘆します。

「アンティーク」とは骨董品というような意味だと思いますが、一般的には製造されてから 100 年以上経過したものを指すことが多いようです。これは 1934 年にアメリカで制定された関税法の定義が通説化したものとされていますが、もちろん厳密なものではありません。要は 100 年くらい前の古いもので保存状態が良く、品格があり、価値を見出せるものぐらいの意味合いなのでしょう。家具や日用品などでよくアンティークという言葉がよく使われます。

一方、「ヴィンテージ」というのも明確な定義はありませんが、オークションなどでは製造から 30 年以上経過しているが 100 年未満などといったカテゴリーでまとめていることがあります。元の意味はワインの生産年代を指す用語のようです。つまりアンティークほど古いものではないけれど、私が思うに「誰もが認める名品」、「希少性の高さ」というニュアンスが加わるように思います。ワイン、楽器、車、衣料品（デニムのジーンズは有名）などでよく使われます。

アンティークにせよヴィンテージにせよ、良いものは単なるガラクタには見えない品の良さと、優れたデザイン性が共通点と感じます。それを実際に使用していたのは、どこの国のどのような階級の人間であったのか、その時代背景として、もしかしたら戦時中だったのか？などとその品物にまつわる過去や歴史を想像してみるのも楽しいものです。